

1. 平成 16 年度

- 1) 第 1 回研究委員会 平成 16 年 6 月 10 日(木) (別紙 1)
- 2) 第 2 回研究委員会 平成 17 年 2 月 2 日(水) (別紙 2)
- 3) 第 3 回研究委員会 平成 17 年 3 月 17 日(木) (別紙 3)

2. 平成 17 年度

- 1) 第 1 回研究委員会 平成 17 年 5 月 16 日(月) (別紙 4)
- 2) 第 2 回研究委員会及び公開講座、太極拳モデル演技披露会
平成 17 年 11 月 5 日(土) (別紙 5、6)
- 3) 第 3 回研究委員会 平成 18 年 2 月 27 日(月) (別紙 7)

「高齢転倒経験者における介護予防対策の費用対効果に関する研究」

第 1 回研究委員会 議事録

平成 16 年 6 月 10 日 (木)

出席者：岡本・鶴見・長澤・清水・中村 (丁)・浅利・内田・米津・芝原・中村 (美)・武澤

I. 研究組織

岡本連三	リハビリテーション学科	
中村丁次	栄養学科	
鶴見隆正	リハビリテーション学科	理学療法学専攻
清水順市	〃	作業療法学専攻
長澤弘	〃	理学療法学専攻
浅利勝照	人間総合・専門基礎	
芝原修司	横須賀市中央保健福祉センター	
内田賢一	リハビリテーション学科	理学療法学専攻
米津亮	リハビリテーション学科	理学療法学専攻

II. 平成 16 年度研究概要

- ① 岡本：高齢者大腿骨頸部骨折患者の総入院費、請求保険点数、治療法などの調査。
横浜市立大学市民総合医療センター（三ツ木の協力を得る）、大口東総合病院（石橋庶務課長の協力を得る）、湘南泉病院（藤田の協力を得る）。
- ② 鶴見・長澤：転倒予防教室および介護予防教室に関わる費用に関する調査（横須賀・三浦地区 PT 懇話会を通じて）。
- ③ 芝原・内田・米津：転倒予防教室および介護予防教室について調査。
- ④ 清水：転倒予防教室および介護予防教室に関する費用の調査（三浦半島 OT 研究会を通じて）および嚥下障害高齢者の調査。
- ⑤ 浅利：高齢者重度骨折、骨折予防教室、介護予防教室における経済関係文献の検索と要約。

III. 平成 17 年度研究概要

- ① 平成 16 年度研究の継続および転倒予防教室および介護予防教室に関わる費用の全国規模アンケート調査
- ② 中村；高齢者および転倒経験者の栄養状態、栄養改善法、栄養改善職を用いての転倒予防効果と費用、経済的評価
- ③ 清水；高齢者および転倒経験者の嚥下障害の状態、嚥下訓練のための費用と計税的評価についての調査

IV. 本年度の研究事業スケジュール（別紙）

中間報告書を各自 12 月末までに作成して岡本まで提出。

V. 研究費の配分について

文責：中村

平成16年度 厚生労働科学研究

「高齢転倒経験者における介護予防対策の費用対効果に関する研究」

第2回研究委員会 議事録

平成17年2月2日(水)

出席者：岡本・鶴見・長澤・芝原・清水・浅利・内田・中村(丁)・中村(美)・武澤

I. 平成16年度活動報告

①岡本

- ・大腿骨頸部骨折総入院費と入院期間の調査を行った。
- ・平均入院費は185万円、平均入院日数は47日であった。

②鶴見・長澤

- ・介護予防および転倒予防教室における一人当たりの費用調査を行った。
- ・費用は平均4万円程度であったが、効果判定は行わなかった。

③芝原・内田・米津

- ・107名の転倒原因機序について調査した。

④清水

- ・嚥下障害の患者を対象に調査を行い、転倒経験者は数名程度であった。
- ・今後は事例検討が必要と考える。

⑤浅利

- ・ニュージーランドの現状について文献調査を行った。
- ・看護師主導で転倒予防筋トレを行っていた。
- ・費用は、平均51万であった

II. 平成17年度研究計画

調査対象を全国展開し、横浜市立大学医学部附属病院を主とした大学病院をも調査対象とする。

III. 研究費の配分

消耗品は研究費を用いて購入可能。事前に提示していただきたい。

文責：内田

平成16年度 厚生労働省科学研究

「高齢者転倒経験者における介護予防対策の費用対効果に関する研究」

第3回研究委員会 議事録

平成17年3月17日(木)

出席者：岡本・鶴見・長澤・清水・芝原・浅利・内田・米津・中村(美)・武澤

報告

I. 平成17年度研究申請の報告

平成17年度研究申請の継続可能(資料参照)

II. 平成16年度研究報告

1) 費用効果について(長澤報告:資料参照)

・介護予防および転倒予防教室の明確な分類把握が必要である

2) 横須賀市の取り組み報告(芝原報告)

3) 文献的考察(浅利報告)

III. 平成17年度研究内容について

1) 嚥下機能と転倒者に関する調査

- ・平成17年度9月頃から対象者の嚥下機能の評価を実施する(清水)
- ・誤嚥性肺炎のための総入院治療費のアンケート調査(岡本)
- ・嚥下障害治療法と栄養マネジメント
治療費および栄養マネジメント費用の調査(岡本・中村(丁))

2) 転倒予防および介護予防に関するアンケート調査

・全国規模でのアンケート調査実施(岡本・鶴見・長澤・内田・米津・芝原)

3) 文献的考察(浅利)

III. 研究費の配分

消耗品やデータ処理に関する人件費など事前に報告すること。

文責 米津

平成 17 年度 厚生労働省科学研究
「高齢者転倒経験者における介護予防対策の費用対効果に関する研究」

第 1 回研究委員会 議事録

平成 17 年 5 月 16 日 (月)

場所：県立大学 演習室 10

出席者：岡本・中村 (丁)・鶴見・長澤・清水・芝原・浅利・内田・米津・中村 (美)・

報告

I. 平成 17 年度研究申請の報告 (資料参照)

本年度 12 末までに研究結果をまとめることをインフォメーションする

II. 平成 17 年度研究内容について

1) 費用効果について (長澤報告)

・ 詳細なアンケート用紙の作成と多施設への調査の実施

2) 横須賀市の取り組み報告

・ 現在実施中の取り組みの概要を書面で報告

3) 嚥下障害と転倒に関する調査

・ 嚥下障害と職種における費用効果について調査実施予定 (清水報告)
(歯科衛生士へのアンケート調査も検討中)

* 嚥下の予防に関する訓練についての事例検討を行う

・ 嚥下障害治療法と栄養マネジメントについて (中村報告)

嚥下食と治療費の実態調査を実施予定

→すでにアンケート送付済み

3) 文献的考察 (浅利報告)

III. 研究費の配分

消耗品やデータ処理に関する人件費など事前に報告すること。

文責 米津

神奈川県立保健福祉大学
大学祭

いきいき生きるための介護予防
市民のための講演会

日時 : 平成17年11月5日(土) 13:30~16:00
場所 : 教育研究棟4階 A448 視聴覚教室
受付 : 13:30 開始
開演 : 14:00
司会 : リハビリテーション学科 岡本 連三

1. 14:00~14:30

「だれでもできる転倒予防体操」

リハビリテーション学科長
岡本 連三

2. 14:30~14:45

「転倒を予防する新しい歩行器」

理学療法学専攻長
鶴見 隆正

3. 14:45~15:15

「栄養をつけて元気に生きるノウハウ」

栄養学科長
中村 丁次

4. 15:15~15:30

「横須賀市における高齢者体力づくり教室」

横須賀市長寿社会課分室
訪問指導担当主任
芝原 修司



(別紙6)



転倒予防体操としての 太極拳 披露会



主催 : KUHS 太極拳クラブ

(KUHS Tai Chi Club)

応援出演 : 横浜市栄区太極拳クラブ

「 ニーハオ若竹 」

日時 : 平成17年11月5日(土)

12時15分 ~

場所 : 体育館屋上5階 芝生庭園

(裏門側のエレベーターで5階へおこし下さい)

演目 : 1. 練功十八法・前段

2. 簡化二十四式太極拳

「白鶴の舞」



厚生労働省科学研究

高齢者転倒経験者における介護予防対策の費用対効果に関する研究

第 3 回研究委員会 議事録

期日：平成 18 年 2 月 27 日（月） 11：30～13：00

場所：神奈川県立保健福祉大学 教育研究棟 5 階 演習室（A530）

出席者：岡本連三，中村丁次，浅利勝照，芝原修司，内田賢一

欠席者：鶴見隆正，長澤 弘，清水順市，米津 亮

1. 17 年度研究内容および 16 年度との統合結果報告

(1) 大腿骨頸部骨折総治療費調査結果報告

横浜市大病院，一般病院 2 病院，計 3 病院における大腿骨頸部骨折患者の総入院費に関する調査が報告された。調査例数は全 143 例，一人当たりの平均総入院費は 216 万円であった。16 年と 17 年の合算では，症例数 375 例となり平均総入院費は 195 万円となった。（報告者：岡本）

(2) 転倒予防教室，介護予防事業，筋力向上トレーニングの調査結果報告

回収率が 31%（374 施設／1195 施設）であった高齢者転倒予防に関するアンケートの結果が報告された。介護予防に対する取り組みを行っている施設は 89，していない施設が 104，考慮中の施設は 162 であった。一人あたりの経費（機器費用含）については，転倒骨折予防に対する取り組みが 33,726 円，高齢者筋力向上トレーニングが 53,196 円，双方を合わせての平均は 44,574 円であった。16 年度は平均 4 万円弱であったが，本年は機器購入費を考慮に入れ算定した結果が考えられる。（報告者：岡本）

(3) 嚥下障害に関する調査，誤嚥性肺炎治療費の結果報告，嚥下食に関する調査報告

17 年度回収率 42%（37 施設／89 施設）であった嚥下障害・嚥下食に関するアンケートの結果が報告された。37 施設中，嚥下障害に対する治療を行っている施設は 27 施設，訓練を実施している職種（重複回答可）は言語聴覚療法士が最多で 22，医師 18，看護師 7，作業療法士 6，管理栄養士 1 であった。入院治療の平均総入院費は，治療を行っている 27 施設中 24 施設が不明と回答しており詳細は不明であったが，誤嚥性肺炎を併発した場合，200 万円を超えることもあるとの回答をした施設もあった。（報告者：岡本）

嚥下食の現状とコストに関する結果が報告された。調査施設数 35 施設（病院 28，社会福祉施設 7）の平均病床数は 680.5，平均喫食者数は 511.7 人，平均食材料費は 824.4 円，平均調理従事者数は 18.6 人であった。嚥下食は，ミキサー食が 82.9%と最多であったが，きざみ食が 77.1%であり，

とろみ食やゼリー食の74.3%より多かった。様々な経費を算定した結果、嚥下食を作成するためには食材費と人件費、設備費、光熱費を加算すると、約450円程度のコストがかかることが明らかとなった。(報告者：中村)

(4) 文献的調査報告

「出産後のうつ病についての一次診療と外来精神病院における外来治療との費用対効果の比較 (Elizabeth, et al. 2001)」, 「スリップと転倒事故による経済的側面 (Fred Englandar, et al. 1996)」の2論文について報告が行われた。(報告者：浅利)

2. 審議事項

(1) 今後の方針

1週以内に報告書を作成する。研究内容に関する発表論文の別刷10部を主任研究者に提出する。

(文責：内田)